

2026年3月期第3四半期

決算補足説明資料
(2026年2月9日)

Contents

Chapter
01

会社概要

Chapter
02

2026年3月期 第3四半期決算概要

Chapter
03

2026年3月期 業績見通し

Chapter
04

株主還元



Chapter 01

会社概要

いのちを守り、 未来を支える

私たちグループが提供する製品・サービスは
全て使い手の命や生活に直結しています。

『安心して使える』という価値提供により
命と生活を守るのが、私たちの存在意義です。

価値提供の積み重ねにより、
街が栄え、生活が豊かになり、
ひいては社会全体が永続していくことが
私たちの描く未来です。

商 号	信和株式会社
本 社	岐阜県海津市
代 表 者	代表取締役 則武 栗夫
創 業	1977年9月
資 本 金	153百万円
従 業 員 数	259名(2025年3月末現在)
証 券 コード	3447(東証スタンダード、名証プレミア)
沿 革	

1977	信和商店として事業を開始
1978	仮設資材「ジャッキベース」の製造販売を開始
1988	「シンワキャッチャー」を開発、システム足場市場に進出
2003	物流機器部門を設立
2018	東京証券取引所・名古屋証券取引所に株式を上場
2024	大手足場施工会社であるヤグミグループの株式取得
2025	アルミ加工会社である株式会社凰金属工業の株式取得 型枠・土木工事会社である海津建設株式会社の株式取得

事業内容

仮設資材部門

● 事業内容

- ・建設現場などで使用される仮設資材の製造・販売・レンタル
- ・仮設資材(主に足場)の施工サービス

● 特長

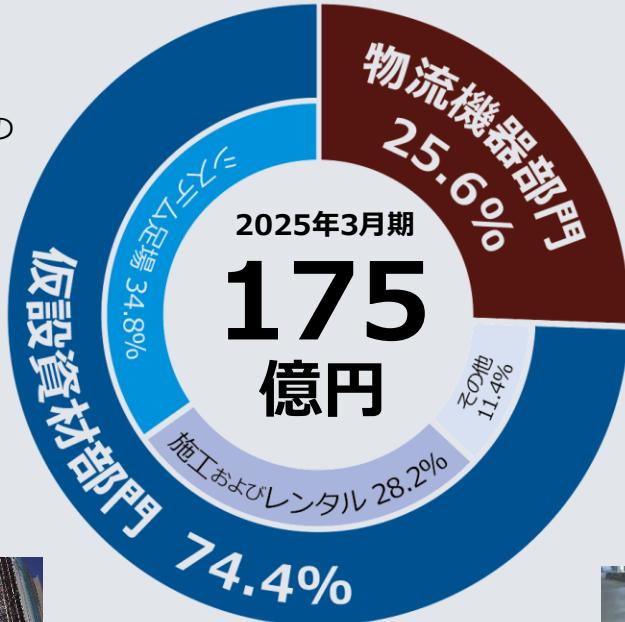
- ・システム足場の**国内シェアNO.1**
- ・**国内自社工場**による**高品質な足場**
- ・低層から超高層建築物まで対応可能



住宅工事



マンション工事



物流機器部門

● 事業内容

- ・搬送等に使用される物流機器の製造・販売
- ・工場・倉庫・建設現場等での物品の保管用機器の製造・販売

● 特長

- ・提案・設計・製造・設置・メンテナンスまで**一貫したサービスを提供**
- ・幅広い業種に様々な物流機器製品の**納入実績**



自動車メーカー
向けパレット



液体搬送用バルク
コンテナージ

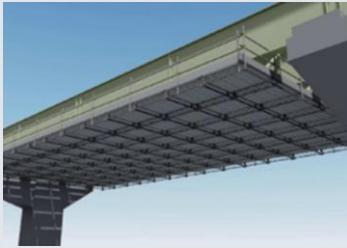


大規模倉庫用ラック

パーザスに関する取り組み①

橋梁用システム吊り足場

政府による国土強靭化計画に沿った製品。橋梁の老朽化が急速に進む中、増加する点検補修需要に応える。



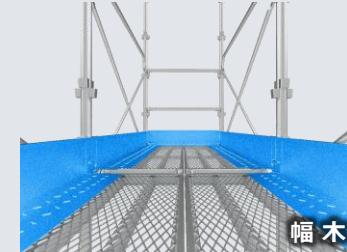
足場の機能強化

抜け止め機能により安全性をさらに向上。低騒音施工を可能にした設計で居住地域などの周辺環境にも配慮。



安全措置資材の開発

トップシェアのノウハウを活かした「安全措置資材」の開発人の墜落、物の落下を防ぎ、安全性を高める。



軽量化の取り組み

建設就業者の高齢化が進む中、軽量化による作業負荷軽減を通じて安全性と生産性を高める。重量減による輸送効率の向上にも寄与。



今までより多く運び
今までより楽に作業する

きい パーザスに関連した取り組み②

橋梁用システム吊り足場（ラピッドフロア）



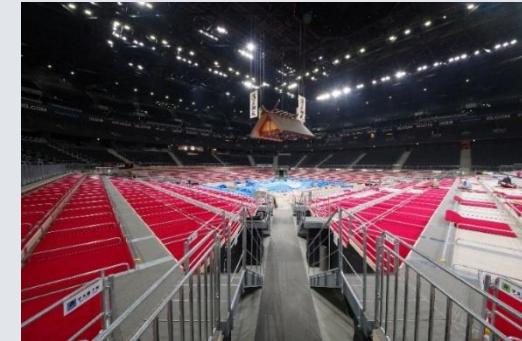
①従来吊り足場との比較

従来の吊り足場が抱えていた作業スペースの狭さや強度面の課題に対し、「ラピッドフロア」は、独自構造により安全性と作業効率が大幅に向上了。

②現場で評価される3つのメリット

広い作業スペースと高い耐荷重性能を両立し、現場では「安全性向上」「作業効率改善」「コスト削減」の3つの効果が評価されている。

【技術応用】足場の機能強化（大相撲名古屋場所）



①技術力の応用

建設用足場の技術力を応用し、従来は設営が困難だった複雑な形状の観客席を実現。ミリ単位の精度により、安全性と快適性が大幅に向上了。

②現場評価が高まる総合的な導入メリット

安全性、設営効率、コスト削減を同時に実現する製品として高く評価。オーダーメードで複雑な形状にも対応し、長期使用できる信頼性も強みとなっている。

軽量化の取り組み（BUDDY SYSTEM）



①軽量化による安全性・効率性の向上

新世代の軽量足場は、従来比20%の軽量により作業効率向上と運搬負荷の軽減を実現。軽量化は安全面にも寄与し、墜落・転落リスクを大幅に低減。

②現場評価が高まる総合的な導入メリット

現場での使い勝手や積載効率も向上しており結果として安全性・効率性・コスト削減を同時に実現する足場製品として評価が高まっている。



Chapter 02

2026年3月期 第3四半期決算概要

2026年3月期第3四半期 決算ハイライト

売上収益

15,397百万円

前年同期比19.9%増

売上総利益

4,365百万円

前年同期比26.1%増

営業利益

2,348百万円

前年同期比65.6%増

四半期利益 (※)

1,676百万円

前年同期比93.3%増

※親会社の所有者に帰属する四半期利益

業績

- 各利益は業績予想を上回って推移。通期の業績については現在精査中。
- 今後修正が必要と判断した場合には速やかに開示する。

市場環境

- 建設業界全体では、資材単価の上昇やインフラ老朽化対応、都市再開発プロジェクトの進展を背景に、投資額は底堅く推移。一方で、住宅市場においては資材価格の高止まりや人手不足等の影響により、新設住宅着工の抑制傾向が続いている。

事業進捗

仮設資材部門

- 「所有」から「利用」へのシフトに対応し、販売とレンタルを組み合わせた柔軟な提案を強化。2024年4月に子会社化したヤグミグループに加え、2025年10月に子会社化した海津建設株式会社の売上寄与もあり、施工・レンタルに関わる売上収益が増加。また、販売についても顧客ニーズに応じた提案強化により好調に推移。

物流機器部門

- 大型物流倉庫案件が売上拡大を大きく牽引。また、ガラス・土石製品や自動倉庫分野など、幅広い業界からの継続受注もあり、部門売上収益は前年同期比61.2%増と大幅に伸長。
- 海津建設株式会社の子会社化に伴い、負のれん発生益504百万円を「その他の収益」に計上。
- 子会社における資金流出事案に関連する損失250百万円を「その他の費用」に計上。

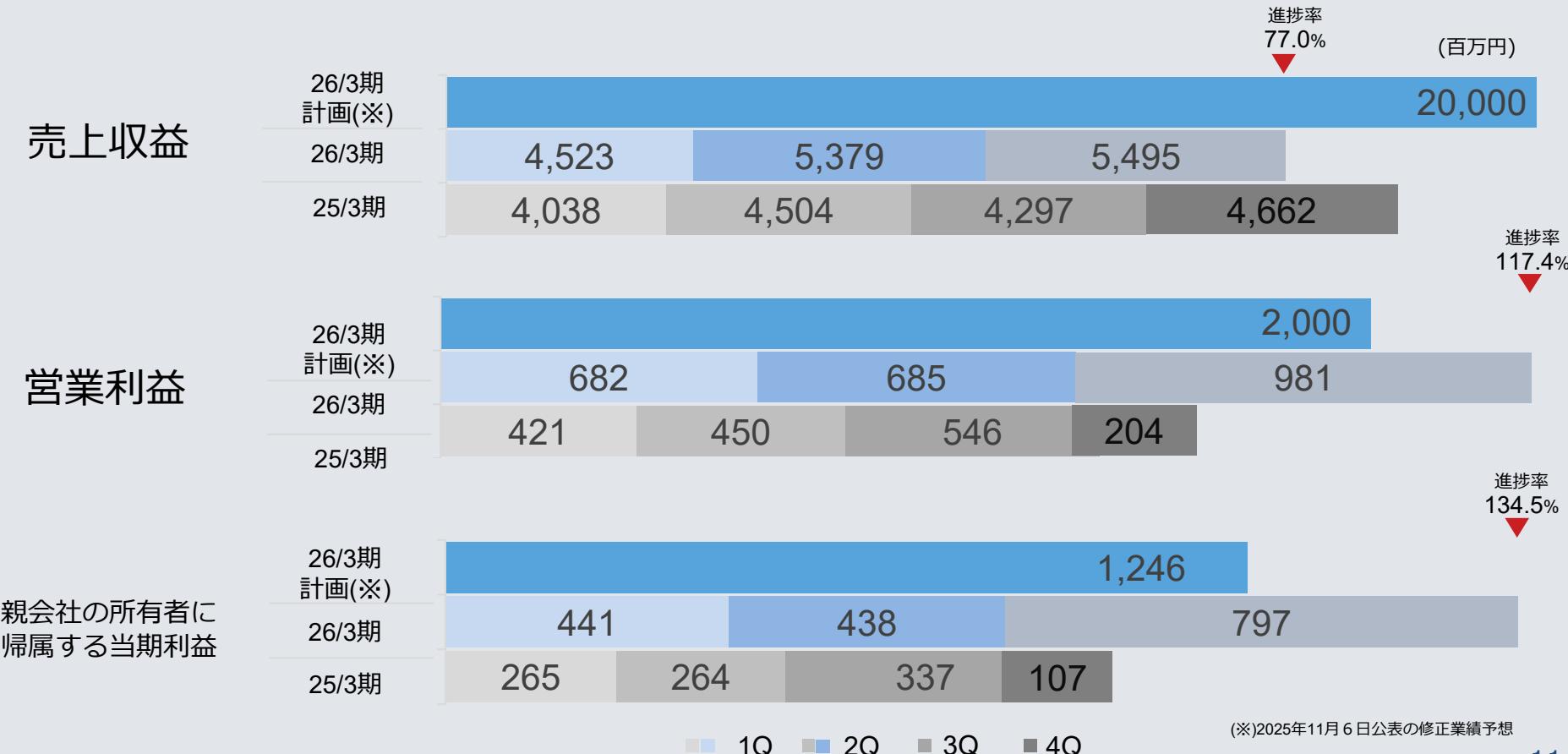
トピックス

2026年3月期第3四半期 連結業績

(IFRS・百万円)

	2024.3月期 3Q	2025.3月期 3Q	2026.3月期 3Q		
	実績 (売上比)	実績 (売上比)	期初計画 【5月14日公表】 (売上比)	実績 (売上比)	計画比 増減額 (増減率)
売上収益	9,675	12,840	13,142	15,397	+2,255 (+17.1%)
仮設資材部門	7,182 (74.2%)	10,180 (79.3%)	9,710 (73.0%)	11,110 (72.2%)	+1,400 (+14.4%)
物流機器部門	2,493 (25.8%)	2,659 (20.7%)	3,431 (27.0%)	4,286 (27.8%)	+855 (+24.9%)
売上総利益	2,168 (22.4%)	3,460 (27.0%)	3,341 (26.2%)	4,365 (28.4%)	+1,024 (+30.6%)
販管費等	1,474 (15.2%)	2,022 (15.9%)	2,097 (16.2%)	2,331 (15.1%)	+234 (+11.1%)
営業利益	694 (7.2%)	1,418 (11.0%)	1,249 (10.0%)	2,348 (15.3%)	+1,099 (+87.9%)
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	439 (4.5%)	867 (6.8%)	784 (6.3%)	1,676 (10.9%)	+892 (+213.7%)
					+809 (+93.3%)

修正後通期業績予想に対する四半期の進捗状況



型枠・土木工事のノウハウが加わり、より一体的かつ広範なサービス提供が可能に

会社概要

商 号	海津建設株式会社
本 社	愛知県名古屋市西区
代 表 者	代表取締役 近藤 正
創 業	1967年1月
事 業 内 容	土木建設の請負および設計施工等
資 本 金	32百万円
従 業 員 数	61名



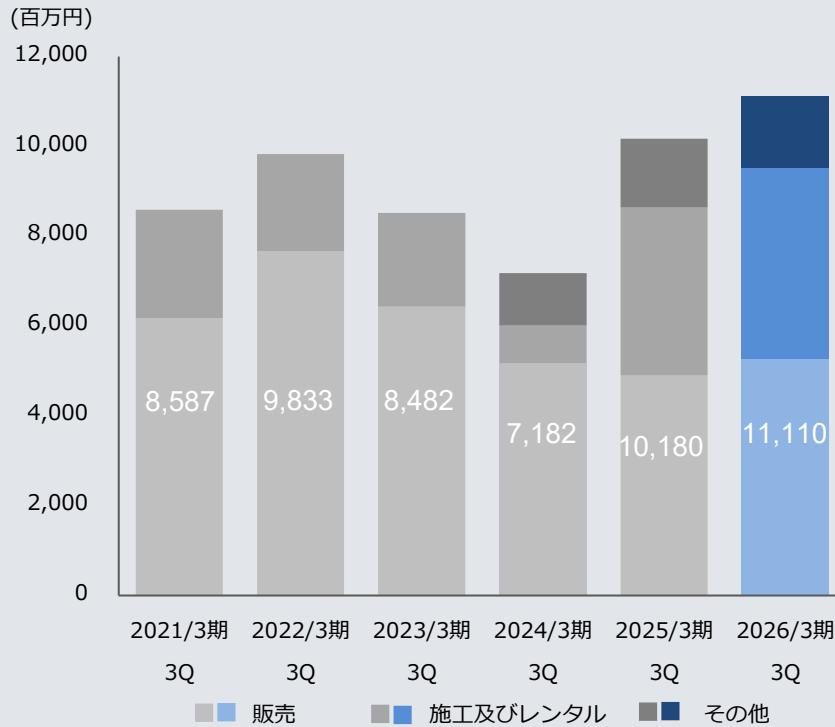
経営成績(2025年6月期)

売 上 高	2,329百万円
営 業 利 益	48百万円
経 常 利 益	64百万円
当 期 純 利 益	83百万円

- 鉄の加工にノウハウを持つ当社が型枠・土木工事の能力を取り入れることで、より一体的かつ広範なサービス提供が可能となる
- 岐阜県海津市をルーツとする共通の基盤を有し、互いの経営資源を連携させることで、新たな価値創造を目指す

部門別の状況／仮設資材部門

売上収益の推移



当期連結累計期間の状況

需要動向と営業活動

原材料価格の高止まり等を背景に、顧客が購入よりレンタルを選択する傾向は継続。ニーズに応じた提案の強化により、主力製品のくさび緊結式足場等の販売も好調に推移。

グループシナジーの創出

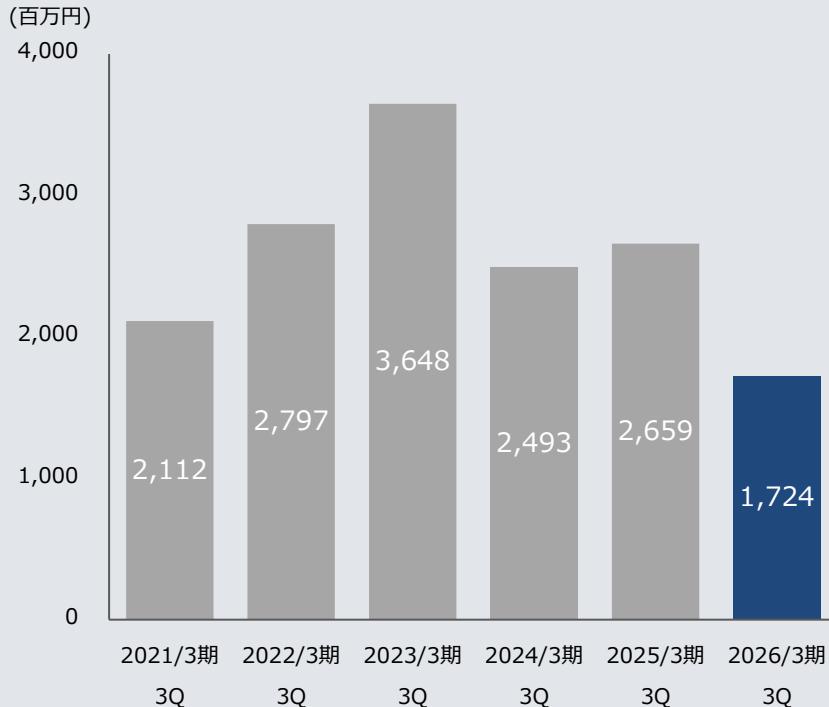
2024年4月に子会社化したヤグミグループが豊富な人材力で工事需要を確実に取り込んだことに加え、2025年10月よりグループに加わった海津建設株式会社の売上も寄与。

実績

「くさび緊結式足場」の販売増や、「施工及びレンタル」の大幅な伸長（前年同期比約13.8%増）により、部門売上収益11,110百万円（前年同期比9.1%増）と堅調に推移。

部門別の状況／物流機器部門

売上収益の推移



当期連結累計期間の状況

ソリューション提供

大型物流倉庫や自動車業界など多様な産業向けに、オーダーメイド製品を通じた運搬・保管の効率化と安全性向上を実現するソリューションを提供。

受注状況と業績への寄与

ガラス・土石製品業界や自動倉庫分野など、幅広い業界から継続的な受注を獲得。なかでも大型物流倉庫関連案件が売上に大きく寄与し、事業拡大を牽引。

実績

これらの結果、部門売上収益は4,286百万円（前年同期比61.2%増）となった。



Chapter 03

2026年3月期 業績見通し

仮設資材を取り巻く環境と今後のニーズ

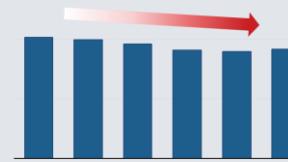
リフォーム需要、安全意識の高まり、技能者不足は追い風の環境

環境変化

住宅や社会資本※の老朽化



建設現場の人材不足
技能を持った職人の減少



法改正・安全衛生規則の改正

想定されるニーズ

維持修繕工事
需要が増加

より安全に配慮した
足場の需要が増加

省人化・
組立の容易化の需要が
増加

信和の強み

高品質で
安全性・施工性の高い
システム足場

社会のニーズに
迅速に応える商品開発

製造から施工まで
一貫したサービスを提供

※道路、港湾、水道、公園、通信、空港、ダムなど、国や自治体などの公的機関によって形成されてきた社会資本の量

物流機器部門の注力分野

従来業種への深耕と、技術・ノウハウを生かして新分野への進出を図る



化学



自動車



汎用品



農水産



電機



省人化分野

AGV(無人搬送機器)などの取扱・コンサル事業へ参入。倉庫業務の省人化ニーズを捉える。



海外展開

海外への物流機器納入実績を活かし、さらなる製品・サービス提供体制を整える。

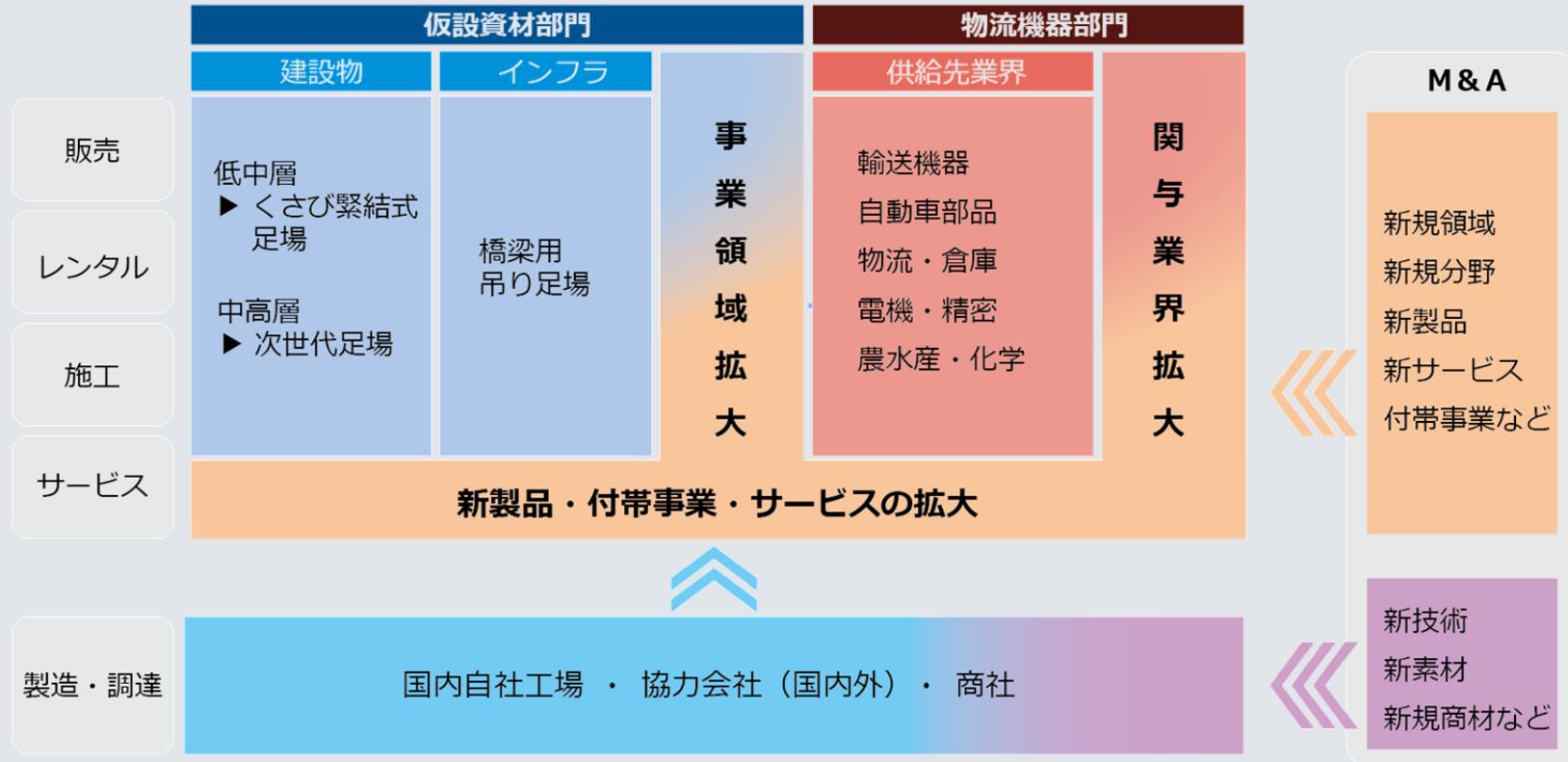


未経験業界への積極的な挑戦

特殊な物品等の輸送・保管ニーズを見いだし、新たな価値提供を通じて、事業領域を広げ続ける。

信和グループの成長戦略

グループ内リソースの活用とM&Aにより、事業領域・サービスを積極的に拡大する



2026年3月期 通期連結業績予想

現在精査中であり、今後修正が必要と判断した場合には速やかに開示を行います。

(IFRS・百万円)

	2023.3月期	2024.3月期	2025.3月期	2026.3月期			
	実績 (売上比)	実績 (売上比)	実績 (売上比)	期初予想 (5月14日)	今回予想 (11月6日)	今回 - 前回	前期比 増減額 (増減率)
売上収益	14,757	12,678	17,503	17,800	20,000	+2,200 (+12.4%)	+2,496 (+14.3%)
営業利益	1,501 (10.2%)	700 (5.5%)	1,622 (9.3%)	1,650 (9.3%)	2,000 (10.0%)	+350 (+21.2%)	+377 (+23.3%)
税引前利益	1,434 (9.7%)	652 (5.1%)	1,498 (8.6%)	1,520 (8.5%)	1,820 (9.1%)	+300 (+19.7%)	+321 (+21.5%)
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,007 (6.8%)	409 (3.2%)	975 (5.6%)	1,000 (5.6%)	1,246 (6.2%)	+246 (+24.6%)	+270 (+27.8%)
基本的1株当たり当期利益(円)	72.49	29.46	70.17	71.96	91.20	-	-

業績見通し／仮設資材部門

売上収益14,400百万円(前期比+10.5%)の見通し。

売上実績と当期見通し

(百万円)



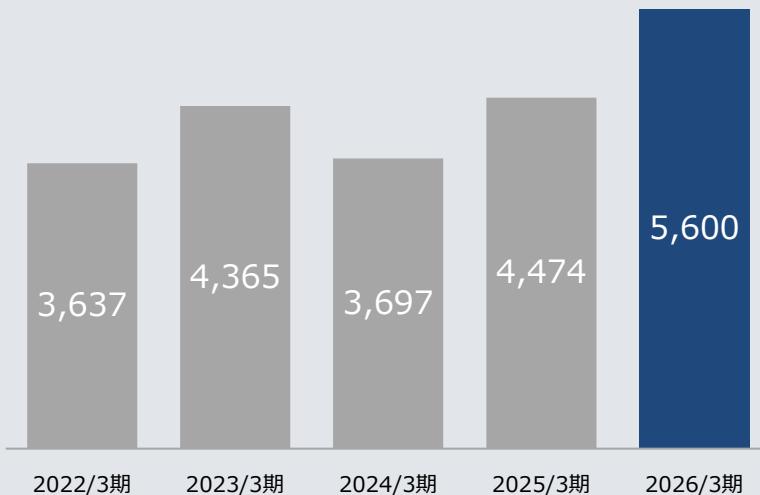
- くさび緊結式足場などシステム足場の需要は一定水準の継続を見込む。また、仮設資材の施工サービスの売上収益貢献を引き続き見込む。
- インフラ関連製品および高付加価値製品・サービスの開発と普及の促進に努める。

業績見通し／物流機器部門

売上収益5,600百万円(前期比+25.2%)の見通し。

| 売上実績と当期見通し

(百万円)



- 液体搬送用バルクコンテナや物流倉庫向けラックなどの堅調な推移を見込んでいる。
- 銀河金属工業のグループ化による、アルミ素材を活かした提案を展開する。より付加価値を高め、多くの案件獲得につなげる。
- 物流機器部門として上場来最高の売上収益の見込み。

2025年3月期～2029年3月期

信和グループ中期経営計画 - 確実な成長と飛躍の足場固め -

注力分野

1 橋梁をはじめとする
インフラ向け製品拡販

2 仮設施工サービスの
付加価値向上

3 物流事業
領域拡大と強化

中期経営計画最終年度 主要指標

修正を検討中

売上収益	200億円
営業利益	24億円
EBITDA	30億円
E P S	114.57円
R O E	8.5%

累進配当
1株当たり下限32円

5期間の資金調達と配分計画

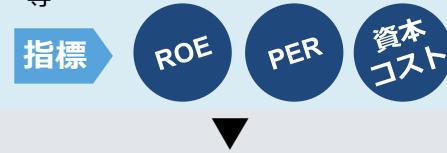


キャッシュ・イン

キャッシュ・アウト

PBR向上に向けた取り組み

- ✓ 業績目標の継続達成による利益拡大
- ✓ 株主還元の充実
- ✓ 経営基盤の強靭化(ESG観点含む)
- ✓ 等



中長期的な価値創造・株価上昇
PBR向上



Chapter 04

株主還元

配当方針について

現行の配当金水準以上の還元を維持しつつ、内部留保の充実を図る

配当方針の背景と目的

- 中期経営計画において、有望なM&A案件への投資を通じた企業価値の向上を成長戦略として位置づけ、推進している。
- 投資のための内部留保を充実させるとともに、借入金の返済原資にも充当

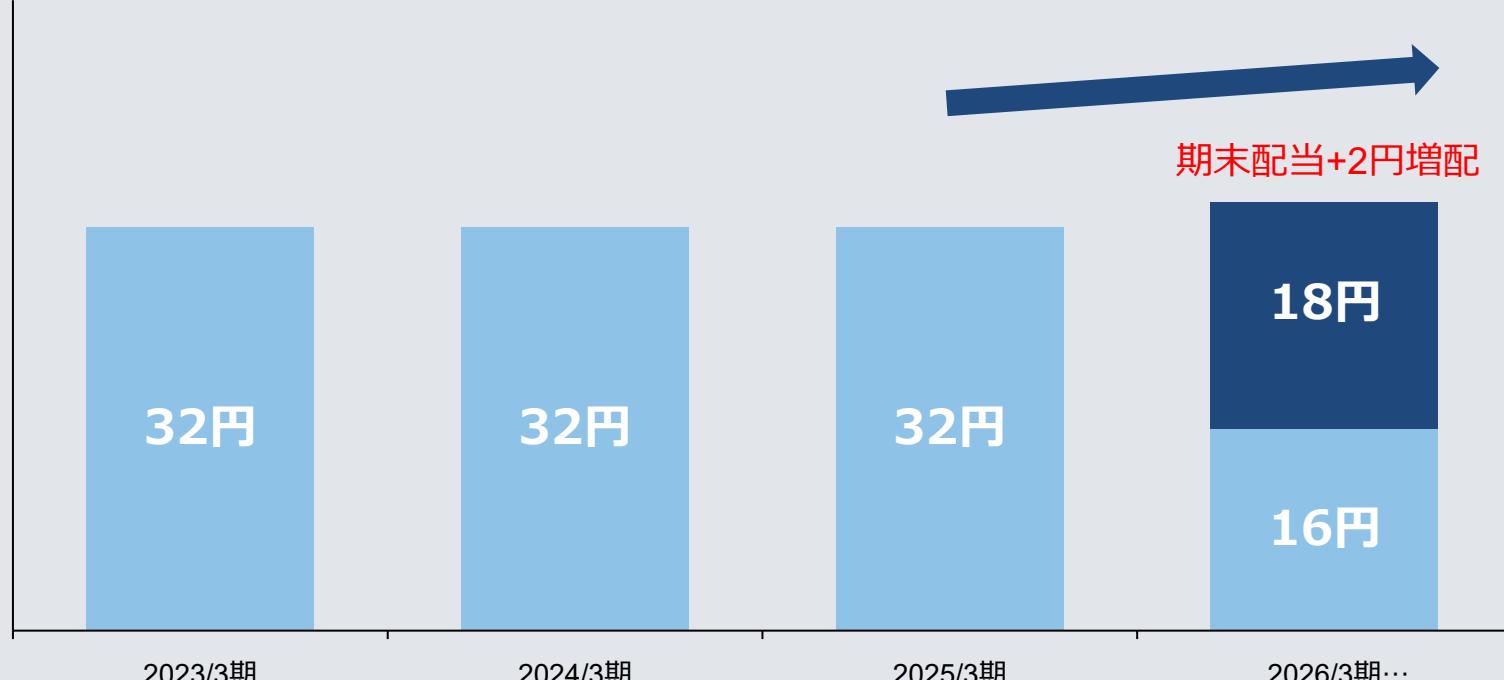
内容

基本方針	成長投資等のための内部留保	配当・自己株取得を通じた株主還元
双方のバランスを総合的に考慮 年間配当金の下限を32円とする累進配当		
内部留保の使途	<ul style="list-style-type: none">戦略的M&Aの実施一層の事業拡大を目指すための設備投資・人材育成借入金の返済	

配当予想

期末配当を前回予想より+2.0円増配し、1株あたり18.0円とする予定。

これにより、中間配当の1株あたり16.0円とあわせて年間配当金は1株あたり34.0円となる予定。



2023/3期

2024/3期

2025/3期

2026/3期…

注意事項

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。

かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。



岐阜県海津市平田町仏師川30-7

部 署 — 経営企画部

T E L — 0584-66-4436

e-mail — ir@shinwa-jp.com